

授業科目	成人看護学概論	単位数	1 単位	講師名	看護教員
		時間数	30 時間		
学年	1 学年			履修期	後期
授業の目標	1．成人期の特徴と健康との関連を学び、成人看護の必要性和方向性を学ぶ。 2．成人保健、健康段階に応じた看護の役割機能を学ぶ。				
授業内容 (授業計画)	1．成人の特徴と生活 1) 成人期の発達課題の特徴 2) 成人の生活 3) 成人を取り巻く環境 2．成人における健康の保持・増進・疾病の予防 1) 生活習慣に関連する健康問題 (1) 生活習慣病の要因 (2) 健康問題の現状と推移 (3) 生活習慣の是正 2) 職業に関連する健康問題 (1) 就労条件・環境と疾病との関係 (2) 職業性疾患の要因と健康診断の受診行動 3) ストレスに関連する健康課題 (1) ストレス関連疾患の要因 (2) ストレス解消方法 3．学習支援 1) 学習にかかわる諸理論 2) 対象に合わせた目標設定 3) 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫 4) 個別指導・集団指導の特性と適応				
評価方法	1．筆記試験　2．課題提出　3．授業態度				
注意事項	発表やディスカッションで学びを深める。積極的な授業参加を期待。				
教科書	1．系統看護学講座　専門分野Ⅱ〔1〕成人看護学総論　（医学書院） 2．看護実践に活かす中範囲理論　第2版（メヂカルフレンド社） 3．国民衛生の動向・厚生指標（一般財団法人　厚生労働統計協会）				
参考図書					

授業科目	成人看護学援助論Ⅰ (急性期)	単位数	1 単位	講師名	看護師・臨床工学技士
		時間数	30 時間		
学年	2 学年		履修期	前期	
授業の目標	1. 成人急性期の生命の危機状態にある対象の特徴及び看護を学ぶ。 2. 周手術期にある対象の特徴及び看護を学ぶ。				
授業内容 (授業計画)	(8)	(2)		(4)	
	1. 心筋梗塞・心不全の患者の看護 (12ECG について) 2. 高血圧・不整脈のある患者の看護 3. 検査 (心カテ・血管造影・心臓超音波) を受ける患者の看護 4. 治療 (PCI・CABG・弁置換術・IAPB・ペースメーカー・血栓溶解療法) を受ける患者の看護 ★テキスト 4 使用	1. 緊急度と重症度のアセスメント 2. 集中治療室の看護 3. 感染症への処置 ★テキスト 1 使用 (第 10 章)		1. 心肺蘇生 (救急法・AED) 1) 心肺停止状態への処置 2) ショックへの処置 3) 急性症状の応急処置 4) 外傷・熱傷・中毒の応急処置 5) 環境要因による障害の応急処置 ★テキスト 1 使用 (第 5 章)	
	(4)	(10)		(2)	
	1. 手術中の看護 1) 手術を受ける患者の手術室入室から退室までの援助 2) 手術室における環境管理 3) 開腹・開胸・開頭・内視鏡下の手術療法による影響と援助 4) 手術体位による影響と援助 5) 麻酔のよる影響と援助 6) 安全管理 ★テキスト 1 使用 (第 8 章)	1. 周手術期の胃がん患者の看護 1) 急性期にある対象のアセスメント【危機理論】 不安のアセスメントと援助 ボディイメージ変容の援助 2) 術前の管理 (IVH の管理含む) 手術療法の理解を促す援助 手術の意思決定への援助 術前オリエンテーション 3) 術後の看護 (PCA の管理含) 4) 術後合併症と予防 5) 術後の機能障害や生活制限への看護 ★テキスト 2 使用 (第 3 章) テキスト 3 使用 (第 5・6・7 章)		1. 輸液ポンプの取り扱い ★テキスト 5 使用	
評価方法	筆記試験				
注意事項	特記なし				
教科書	1. 系統看護学講座 別巻 1 臨床外科看護総論 (医学書院) 2. 系統看護学講座 別巻 2 臨床外科看護各論 (医学書院) 3. 系統看護学講座 成人看護学〔5〕専門分野Ⅱ 消化器 (医学書院) 4. 系統看護学講座 成人看護学〔3〕専門分野Ⅱ 循環器 (医学書院) 5. 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)				
参考図書	特記なし				

授業科目	成人看護学援助論Ⅱ (回復期)	単位数	1 単位	講師名	看護 師
		時間数	30 時間		
学年	1 学年			履修期	後期
授業の目標	1. 成人回復期にある対象の特徴及び障害受容過程に応じた看護を学ぶ。 2. 回復期にある対象の障害に応じた看護を学ぶ。				
授業内容 (授業計画)	(15 時間)			(15 時間)	
	運動機能障害のある患者の看護 1. 機能障害のアセスメント 1) 疼痛 (VAS) 2) 神経麻痺 3) 関節可動域・筋力テスト (MMT) 4) 造影検査 (脊髄・椎間板・関節) 2. 治療を受ける患者の看護 1) ギプス固定 2) 牽引法 3) 人工関節置換術 4) ポジショニングの援助 3. 機能障害をもちながら生活する人の看護 1) 関節リウマチ 2) 椎間板ヘルニア 3) 脊髄損傷 4) 四肢切断 4. 演習 良肢位・床上訓練・杖歩行 (松葉杖) ★テキスト 1 使用			脳・神経機能障害のある患者の看護 1. 機能障害のアセスメント 1) 意識障害 (JCS・GCS) 2) 運動・感覚機能障害 2) 言語機能障害 3) 高次機能障害 2. 治療を受ける患者の看護 1) 開頭術 2) 血管内治療 (血栓溶解療法・動脈瘤塞栓術) 3) 脳室ドレナージ 4) 脳室-腹腔シャント術 3. 機能障害をもちながら生活する人の看護 1) 脳血管障害 (脳血管・クモ膜下出血) 2) 脳腫瘍 (脳腫瘍・下垂体腺腫) 3) 脳梗塞 4) 小脳疾患 (運動失調) 5) 頭部外傷 4. 演習 車椅子・ストレッチャー移乗・移送 ★テキスト 2 使用	
評価方法	筆記試験				
注意事項	特記なし				
教科書	1.系統看護学講座 専門分野Ⅱ〔10〕運動器 (医学書院) 2.系統看護学講座 専門分野Ⅱ〔7〕脳・神経 (医学書院)				
参考図書	特記なし				

授業科目	成人看護学援助論Ⅲ (慢性期)	単位数	1単位	講師名	看護師
		時間数	30 時間		
学年	1 学年	履修期	後期		
授業の目標	１．成人慢性期にある対象の特徴及び自己管理・セルフケアに向けた看護を学ぶ。 ２．慢性期にある対象の疾患に応じた看護を学ぶ。				
授業内容 (授業計画)	(8 時間)		(8 時間)		
	<u>消化機能障害のある患者の看護</u>		<u>内分泌・代謝機能障害のある患者の看護</u>		
	１．検査・処置を受ける患者の看護 １) 上部消化管内視鏡 ２) 大腸内視鏡 ３) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP） ４) 消化管造影 ５) 造影 CT・MRI ６) 直腸診 ２．治療を受ける患者の看護 １) 胃切除術 ２) 人工肛門増設術 ２．機能障害をもちながら生活する人の看護 １) 吐血・下血 ２) 胃潰瘍・胃癌 ３) 肝炎・肝硬変（腹水・黄疸） ４) ストーマケア ★テキスト１使用		１．治療を受ける患者の看護 １) 甲状腺切除术 ２) 甲状腺ホルモン療法 ２．機能障害をもちながら生活する人の看護 １) バセドウ病 ２) 糖尿病 (１) 食事療法 (２) 運動療法（フットケア） (３) 薬物療法（インスリンコントロール） ３．演習：血糖測定 ★テキスト２使用		
	(8 時間)		(6 時間)		
	<u>腎・泌尿器機能障害のある患者の看護</u>		<u>女性生殖器機能障害のある患者の看護</u>		
	１．治療を受ける患者の看護 １) 膀胱切除术 ２) 前立腺切除术 ２．機能障害をもちながら生活する人の看護 １) 排尿機能障害（膀胱訓練・骨盤底筋体操・自己導尿） ２) 尿管ストーマ造設後 ３) 腎不全（血液透析療法を含む） ★テキスト３使用		１．治療を受ける患者の看護 １) 内診時の看護 ２) 性感感染症治療 ３) 乳房切除术 ２．機能障害をもちながら生活する人の看護 １) 性機能障害 ２) ホルモン欠落症状 ３) リンパ浮腫（リンパマッサージ） ★テキスト４・５使用		
評価方法	筆記試験				
注意事項	特記なし				
教科書	１．系統看護学講座 専門分野Ⅱ〔５〕消化器 （医学書院） ２．系統看護学講座 専門分野Ⅱ〔６〕内分泌・代謝（医学書院） ３．系統看護学講座 専門分野Ⅱ〔８〕腎・泌尿器 （医学書院） ４．系統看護学講座 専門分野Ⅱ〔９〕女性生殖器 （医学書院） ５．系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）				
参考図書	特記なし				

授業科目	成人看護学援助論Ⅳ (終末期)	単位数	1 単位	講師名	看護師
		時間数	30 時間		
学年	1 学年		履修期	後期	
授業の目標	1. 成人終末期にある対象の特徴および看護を学ぶ。 2. 終末期にある対象の疾患に応じた看護を学ぶ。				
授業内容 (授業計画)	(10 時間)	(10 時間)	(10 時間)		
	呼吸機能障害の患者の看護 1. 治療を受ける患者の看護 1) 酸素療法(酸素ボンベの残量計算含) 2) 肺切除術(低圧持続吸引含) 3) 非侵襲的陽圧換気 4) 侵襲的陽圧換気(肺痰法・体位ドレナージ) 5) 薬物療法(吸入含) 抗アレルギー・気管支拡張薬・副腎皮質ステロイド 2. 病期や機能障害に応じた看護 1) 腫瘍(肺がん、中皮腫：気管支鏡含) 2) 炎症性疾患(肺炎、気管支炎、胸膜炎) 3) 慢性閉塞性肺疾患(COPD)(呼吸法含む) 4) 気管支喘息 ★テキスト1・5使用	身体防御機能障害の患者の看護 1. 治療を受ける患者の看護 1) 抗 HIV 療法 2) 化学療法 3) 放射線療法 4) 免疫抑制薬 5) 造血幹細胞移植 6) 輸血管理 (1)輸血の種類と取扱い方法 (2)輸血の管理方法 (3)輸血の副作用(有害事象)の観察 2. 検査・処置を受ける患者への看護 1) 骨髄穿刺 2. 病期や機能障害に応じた看護 1) HIV 感染症 2) 血液悪性疾患 ★テキスト2・3使用	緩和ケア 1. エンド・オブ・ライフケア 1) 症状アセスメントとマネジメント 2) 全人的苦痛のアセスメントとマネジメント 3) 苦痛緩和と意思決定支援 4) 予期的悲嘆に対するアセスメントとケア 5) アドバンスケアプランニング 6) 家族ケア 2. 臨死期の看護 1) 身体的ケア 2) 精神的ケア 3) 家族の悲嘆へのケア、代理意思決定支援 ★テキスト4・5使用 (第2・6・7・11章)		
評価方法	筆記試験				
注意事項	特記なし				
教科書	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ〔2〕呼吸器(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ〔4〕血液・造血器(医学書院) 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ〔11〕アレルギー・膠原病・感染症(医学書院) 4. 系統看護学講座 別巻 緩和ケア(医学書院) 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ〔3〕基礎看護技術Ⅱ(医学書院)				
参考図書	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学(医学書院)				

授業科目	成人の看護過程演習 (急性期・終末期・慢性期)	単位数	1 単位		講師名	看護教員
		時間数	45 時間			
学年	2 学年			履修期	前期～後期	
授業の目標	急性期・慢性期・終末期にある患者の看護を展開する。					
授業内容 (授業計画)	(15 時間)		(15 時間)		(15 時間)	
	【急性期：胃がん】 1. 情報収集 2. 情報分析 1) 術前の全身状態の把握と術後に起こりうる問題の予測 2) 機能低下に伴う術後に起こりうる問題の予測 3) 術後侵襲・全身麻酔の影響 3. 看護問題の抽出 1) 全身麻酔の合併症 2) 術後の苦痛 4. 術後の機能障害と生活への影響 5. 看護計画の立案 1) 術後合併症の早期発見 2) 術後合併症の予防 3) 術後の苦痛緩和 4) 術後機能障害 ★テキスト 1～3・8～10 使用		【終末期：肺がん】 1. 情報収集 2. 情報分析 1) 苦痛（呼吸困難・痛み）と日常生活の困難 2) 治療（放射線療法、酸素療法）と日常生活の困難 3) 死の受容プロセス 4) 患者・家族のニードや生活（社会生活も含）への影響 5) 疾病コントロール生活の困難や継続を可能にする要件 3. 看護問題の抽出 1) 患者・家族の看護上の問題の把握 4. 看護計画の立案 1) 状態把握のための観察 2) 苦痛の緩和（呼吸困難・治療に伴う苦痛）の援助 3) 日常生活の支援の援助 4) 患者・家族の予期悲嘆 ★テキスト 4～5・8～10 使用		【慢性期：糖尿病】 1. 情報収集 2. 情報分析 1) 糖尿病の経過と高血糖による心身の変化や症状および合併症の病態 2) 患者・家族のニードや生活への影響 3) 疾病コントロール生活の困難や継続を可能にする要件 3. 看護問題の抽出 1) 患者・家族の看護上の問題の把握 4. 看護計画の立案 1) 合併症の早期発見 2) 糖尿病患者・家族へ血糖コントロール 3) 生活指導 ★テキスト 6～7・8～10 使用	
評価方法	課題提出により評価					
注意事項	特記なし					
教科書	1. 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 2. 別巻 臨床外科看護各論（医学書院） 3. 専門〔5〕消化器（医学書院） 4. 専門〔2〕呼吸器（医学書院） 5. 別巻 緩和ケア（医学書院）			6. 専門〔1〕成人看護学総論（医学書院） 7. 専門〔10〕内分泌・代謝（医学書院） 8. 看護過程に沿った対症看護（学研メディカル） 9. 疾患別看護過程の展開（学研メディカル） 10. NANDA－I 看護診断定義と分類（医学書院）		
参考図書	1. 高齢者と成人の周手術期看護 外来／病棟における術前看護（医歯薬出版株式会社） 2. 高齢者と成人の周手術期看護 術中／術後の生体反応と急性期看護（医歯薬出版株式会社） 3. 高齢者と成人の周手術期看護 回復術／腹腔鏡下手術を受ける患者の看護（医歯薬出版株式会社） ★急性期用参考図書					